

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりの長所を伸ばし、「考動力」のある生徒、違いを認め合える豊かな人間性を持った生徒を育成する 各々が充実した学校生活をおくる中で将来の目標を見つけ、自らの人生を切り拓く力を育むことをめざす
1 生徒の可能性を伸ばし、希望する進路の実現を図れる学校
2 一人ひとりに個性を活かした活躍の場があり、互いに尊重し合える学校
3 教職員が一体となって教育活動の充実を図り、地域から信頼され、愛される学校

2 中期的目標

1. 学力の向上と希望進路の実現
(1) 「わかる授業」「力がつく授業」の推進
ア 教員間の授業公開や研究、生徒による授業評価等を活かし、授業改善を推進する。また、一人ひとりのニーズに応じた支援を充実させ、学習内容の定着や、思考力や判断力、表現力等を育む取り組みを進める
(2) 将来を見通した進路指導と希望する進路の実現
ア 自学自習を支援し、授業外の学習習慣の定着、意欲と学力の向上をめざす
※ 学校教育自己診断「授業外学習への取り組み」R9年度に生徒70%以上（R4：68%、R5：68%、R6：51%）をめざす
イ アドバンスクラスでは高い進路目標の実現をめざし、達成感と目標に向かう力を育む
ウ アクティブ専門コース（音楽・スポーツ）等の充実を通して生徒の長所や得意分野を伸ばし、自己肯定感や意欲、リーダーシップ等の育成を多角的に図る
エ 生徒が自分にふさわしい進路目標を立て、積極的に挑戦し、粘り強く取り組み、実現させることができるよう、進路指導部・学年等を中心に指導・支援する
※ 学校教育自己診断（教員）「進路実現に向け、生徒の力をしっかりと伸ばすことができている」をR9年度に80%以上（R4：87%、R5：71%、R6：70%）。
(3) GIGA スクール構想の推進
ア 1人1台端末や整備されているICT機器等を用いて、生徒の理解がより深化するような授業づくりを研究・実践する
2. 豊かでたくましい人間性の育成
(1) 部活動や学校行事等の充実
ア 学業との両立を促し、より強い達成感や充実感が得られるようにする
イ 生徒会等を中心に行事の企画・運営を行うことによって自治意識を高め、協働する力、困難を乗り越える力等を経験させる
(2) 基本的な生活習慣の改善・定着
(3) 人権や多様性の尊重
ア 授業・HR活動等を通して、他者を理解し尊重する心や態度を養う
イ 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、保護者や関係機関等との連携を密にすることによって、相談しやすく、安心・安全な環境を確保する
3. 創立50周年を見据えた魅力づくりと発信
(1) 本校の強みの伸長とアドミッションポリシーなどの再構築
(2) 広報活動のさらなる充実
ア HPやSNS、学校見学会などによって効果的な魅力発信に取り組み、保護者や地域との情報共有も進める
(3) 国際交流活動等の推進
ア 生徒がSDGsを意識したり、多様な文化を体験したりして視野を広げることができるようにする
4. 開かれた学校づくりと学校力・教員力の向上
(1) 地域等との連携推進
ア 探究や部活動、生徒会活動等を通して、大学等外部団体や外部人材、地域との連携・協働を進める
(2) 経験年数の少ない教職員の育成
(3) 働き方改革の推進
ア 本校の特色を踏まえつつ、教職員一人ひとりの意識改革を進めるなど生産性の高い職場をめざす

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和7年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
【生徒】 全21項目の肯定率平均：1年 81.1%、2年 85.0%、3年 90.0%。学年が上がるほど肯定率が上昇する傾向にあった。 工夫された授業が多いかという質問に対して、学年による差が最大20ポイントもある。全体的な傾向としては、学校生活に関する評価は長期的に高い水準を保っており、R7の平均は87.6%で、前年度からわずかではあるものの上昇している。満足度・その他の領域も84.0%と堅調に推移し、学校の体験価値そのものは持続的に高い状態で安定している。他方で、授業・学習指導・進路指導のカテゴリはR7で84.5%と前年度比で-0.5ポイントの微減にとどまり、学習態度・受験勉強の項目群はR6で大きく落ち込んだ後、R7で71.5%へと回復した。依然として学校生活や満足度の水準に比べると低く、年によるブレも最も大きい領域だ。 【保護者】 保護者アンケートの経年比較（R5→R6→R7）を見ると、肯定回答の全体平均はR5で81.7%、R6で80.7%と一時的に低下した後、R7で82.8%へと回復した。対前年比では+2.1ポイント、対一昨年比では+1.1ポイントの改善であり、学校全体の評価は底を打って上向きに転じている。 カテゴリ別に見ると、教育活動全般は高水準を維持しつつも、R6からR7で微減。授業・学習指導・進路指導はR6で落ち込んだ後、R7で持ち直し、学校生活・部活動・行事は安定的に高評価を維持している。特筆すべきは、家庭連絡・相談・情報発信の改善である。R6からR7にかけて+5ポイントと大きく伸び、保護者と	【第1回】令和7年7月4日（金）＜協議会長の選出、学校経営計画＞ - ICT機器を効果的に活用するとは、どのような活用か。授業アンケートにICTに関する自由記述欄があった方がいいのでは。 - 生成AIについて、いつでも対応できるように構えておいた方がいいのでは。 - 今年度は遅刻者数が指標に入っていないのでは。 → 香里丘は、遅刻者を減らすことをあえて言う必要はない。 - 働き方改革について、枚方市の中学校では平日はどの部活動も17時まで、電話対応も17時までとしている。各教員にヒアリングを行い、生徒会の仕事を中心に分担し、分掌の分担も行っている。 - 学校評価の中に総括的なものがあればいいのでは。 【第2回】令和7年11月7日（金）＜授業見学の後に運営協議会、教科用図書選定を実施＞ - 授業見学について、地域の中学生などの住民にも公開してみてはどうか。 - 夏期講習などに積極的でない生徒についても興味を引きつけてほしい。 - 蹉跎東校区のどの学校も創立50周年に近いので、地域として連動したものがあれば良い。 - 第1回授業アンケートをふまえた各教科の意見について、教科で話し合った意見なのか、ただ教科ごとに羅列した意見なのか。掲載の仕方を考えるべき。 - ICTは積極的に活用すべきだが、授業作りに時間を取られては意味がないので、既存の学習プラットフォームも活用していくべき。

府立香里丘高等学校

のコミュニケーション強化が実感されていることが分かる。一方、子どもの様子に関する評価は足踏み状態で、特に家庭学習の積極性は3年連続で低下し、R7では49%にとどまった。 項目別では、参観機会（+9ポイント）、学習と部活動の両立（+9ポイント）、PTA活動（+8ポイント）、分かりやすい授業（+7ポイント）、保護者連絡（+6ポイント）が大きく改善。これらは「学校の見える化」や授業改善の取り組みが保護者に伝わった結果と考えられる。一方、家庭学習（-5ポイント）、進路支援（-3ポイント）、学習・部活動・行事のバランス（-5ポイント）は評価を下げており、行事や部活動に対応した学習時間確保や、進路支援の情報発信が課題といえる。 【教員】 令和7年度の教員アンケート結果を過去3年と比較すると、全体像として授業・進路指導の質は大きく回復した一方、学校生活の運営やICT活用に課題が残る。まず、授業・学習指導・進路指導のカテゴリは、R6で評価が落ち込んだ後、R7で顕著な改善を示した。特に「生徒の進路実現に向けた支援」はR6の70%からR7で95%へと25ポイントも上昇し、過去3年間で最大の改善幅を記録した。また、「学習意欲の高い生徒向けの支援」もR6からR7で12ポイント増加し、R5比では31ポイントの伸びとなった。これは、進路指導や学習支援の仕組みが再構築され、教員にとって「支援が機能している」という実感が強まったことを示唆している。一方で、学習到達度の低い生徒への支援は63%と改善幅が小さく、今後の重点課題となっている。	【第3回】令和8年1月30日(金)<令和7年度学校評価、令和8年度学校経営計画、学校教育自己診断、公式SNS、その他> ・ 7年度の評価について、学校教育自己診断のポイントが目標を大きく上回っているもの（例えば、「行事は生徒を中心に運営」95%）などは「◎」でいいのではないか。 ・ 人権学習に対する評価が上がった理由は何か → 行事に絡め、異性装やゲームの名称・内容などについて考えさせる機会を設けたからだと考える。 ・ クリーンキャンペーンやウガンダとの交流については、地域にもっと広報した方がいい。 ・ 各クラブの考査対策が素晴らしい。 ・ 香里会の内容は？ → 参加者は、1年目の教諭や講師。教師としての心構えなどの内容をまとめたプリントを作成し、その内容についてディスカッションしている。 ・ 公式SNSの閲覧者は、フォロワー37%、フォロワー外63%。閲覧者の居住地域は、枚方市22.7%、寝屋川市13.6%、大阪市11.0%、交野市5.4%。 ・ 新年度から食堂がリニューアルオープンする。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容		評価指標[R6年度値]	自己評価
1 学力の向上と希望進路の実現	(1) 「わかる授業」「力がつく授業」の推進	ア	学力向上委などを中心に、授業改善に努める。教員間の授業見学の機会を増やし、課題を共有する教科や学年で生徒情報の共有を徹底。授業を補完する予習・復習、宿題、講習などを連携させ、学習効果を高めていく	ア 授業見学週間の設定3回[2回] 学校教育自己診断（生徒）「わかりやすい授業」85%以上[82%]	ア ①6月11日～18日②9月16日～19日③1月19日～23日の3回実施。今年度は新たに②③の期間終了後に研究協議を実施し、1人1台端末の利活用などについて議論した（○） 3学期には、1年生で勉強会を放課後に実施。授業で分からなかった部分などの復習を行い、学習に前向きに取り組める環境を設けた。 学校教育自己診断(生徒)「わかりやすい授業」80%（△）
	(2) 将来を見通した進路指導と希望する進路の実現	ア	学力向上委を中心に、学習支援クラウドサービスなどを活用し、授業外の学習充実を支援する	ア 学校教育自己診断（生徒）「授業外での学習の取り組み」60%以上[51%]	ア 学習支援クラウドサービスは、定期考査及び実力テストに合わせて配信。未完了の生徒には実施するように促す取組みを各学年で実施している 学校教育自己診断（生徒）「授業外での学習の取り組み」60%（○）
		イ	アドバンスクラスでは高い進路目標の実現をめざし、達成感と目標に向かう力を育む 再来年度からコースに改編するため、その準備を行う	イ 同（教員）「学習意欲の高い生徒に対する取り組み」70%以上を維持[72%]	イ R7年度アドバンスクラスから、関関同立のべ20名、産近甲龍のべ37名。R9年度からのアドバンスコースについては、アドバンスコース検討委員会にて検討中。 学校教育自己診断（教員）「学習意欲の高い生徒に対する取り組み」84%（◎）
		ウ	高大連携などを活用して、アクティブ専門コースがより魅力的な内容を探る	ウ アクティブコースの次年度選択者数60人以上を維持[74人]	ウ アクティブコース次年度選択者計71人（スポルト63人、音楽8人）（◎）
		エ	生徒が自分にふさわしい進路目標を立て、実現に向けて自ら取り組んでいけるよう進路指導部・学年等を中心に指導・支援する	エ 学校教育自己診断（生徒）「進路実現のための支援が充実」90%以上を維持[91%]	エ 1学期末に夏期講習を実施。2学期末にも冬季講習を実施予定。また夏休みには、受験に焦点をあてた夏期特別講座（外部講師による3日間の勉強特訓期間）に1～3年生16人が参加し、「刺激になった」「もっと長くしてほしい」などの声があった。 1年生「分野別ガイダンス」、2年生「進路模擬講義」など、大学での学びに触れる機会を設けている。今年度はさらに、入試制度や大学そのものに焦点を当てた大学別ガイダンスを2・3年生向けに新設。2年生、3年生ともに90名以上の生徒が参加した 学校教育自己診断（生徒）「進路実現のための支援が充実」91%（○）
	(3) GIGAスクール構想の推進	ア	1人1台端末やICT機器等により、個別最適な学びの実現を図る。また研修や相互見学などで、ICT活用方法やより効果的な授業アイデアの共有を図る	ア 学校教育自己診断（生徒）「ICT機器を効果的に活用」80%以上を維持[83%]	ア 学校教育自己診断（生徒）「ICT機器を効果的に活用」83%（○）

府立香里丘高等学校

2 豊かでたくましい人間性の育成	(1) 部活動や学校行事等の充実	ア 各クラブ内での学習支援の推進 行事や部活動の終了時刻、ノークラブデーの徹底などにより、学習との切り替えを促す イ 生徒会等の活動を充実させ、生徒が主体になって行事などを運営できるよう支援し、思考力・判断力・実行力などを育む	ア 学校教育自己診断（生徒）「学習・部活動の両立」85%以上[87%] イ 同（生徒）「行事は生徒を中心に組織的・効率的に運営」95%以上を維持[97%]	ア 生徒の部活動加入率は約8割。原則、毎水曜日がノークラブデーで、水曜日に設定できない場合は他の曜日に振り替えて実施している 各クラブで考査対策や休み明け英単語テスト対策の勉強会などを開いており、成果をあげている 学校教育自己診断（生徒）「学習・部活動の両立」86%（○） イ 体育祭・文化祭にて生徒会が司会進行、行事の運営の中心を担っている 今年度から、①春に生徒会役員でリーダー研修を行い、香里丘高校のこれからについて意見を出し合ってポスターセッション（ポスターは職員室横に掲示）。12月に第2回を実施し、終業式後に全生徒対象に温かい飲み物を提供した ②文化祭で女子バレーボール部、女子バスケットボール部、陸上部、ソフトボール部が合同でジュース販売 ③秋のクリーンキャンペーン（11月11日）では、ハロウィンの仮装姿で清掃活動を実施。この活動が「こころの再生」府民運動のスクール表彰に選ばれた。このほか、生徒会主導で一昨年度から続けているウガンダ NGO との交流は、現地から取り寄せた品（色鮮やかな布を家庭科部員が小物に加工したものも含む）を文化祭で販売。寄付につなげた 香里を考える HR では、体育祭の応援団の在り方について各クラス・学年で話し合い、11月20日の生徒総会で発表した。次年度に向け競技種目名の変更や応援団の在り方を検討中 学校教育自己診断（生徒）「行事は生徒を中心に運営」95%（○）
	(2) 基本的な生活習慣の改善・定着	あいさつや交通マナーなどの指導により、規範意識の向上に取り組む また、時間厳守を徹底することにより、けじめのある生活を定着させる	学校教育自己診断（生徒）「社会生活に必要な能力を身につけることができる」90%以上を維持[90%]	教員が当番制で毎朝、学校近くの交差点などに立って交通マナーやあいさつの指導にあたっており、規範意識の向上に繋がることができている 授業開始時刻などを厳守するよう指導してきており、定着できている 学校教育自己診断（生徒）「社会生活に必要な能力獲得」94%（◎）
	(3) 人権や多様性の尊重	ア 授業や行事を通じ、違いを認め合い共生する姿勢を育てる 人権尊重の立場から、また一人ひとりの生徒がより快適に、より楽しく学校生活を送ることができるよう、制服の在り方を検討する イ 教員が寄り添いの姿勢で生徒に接し、スクールカウンセラーらと協力し、生徒が声をあげやすい環境をつくる 学校生活に困難を伴う生徒には、適切な支援ができるよう保護者や関連機関と連携していく	ア 学校教育自己診断（生徒）「平和や人権について学ぶ機会がある」80%以上を維持[80%] 制服検討の具体的状況 イ 学校教育自己診断（生徒）「悩みを相談できる先生がいる」70%以上を維持[71%]	ア 1年生「SNS との付き合い方」「人権」「性と生を考える」「北朝鮮による拉致問題」、2年生「部落差別」「性の多様性」、3年生「労働に関する人権」などをテーマに、人権について学んだ 文化祭前に異性装を題材にして人権について学ぶ時間を、全学年の文化委員を対象に設けた。さらに3年生はHRでも異性装の問題を扱った 令和8年度入学生から新制服を導入する。メンズタイプ、レディースタイプともに同じデザインで、ネクタイ、リボン、セーター、ベストなどのアイテムを選ぶことができる。すべての生徒が自分らしく制服を着用できるよう工夫している 学校教育自己診断（生徒）「平和や人権について学習」89%（◎） イ 保健室と連携して必要生徒が適切なタイミングで相談できるよう声掛けをしている。SC や SSW に就学支援委員会に出席してもらったり、担任等が生徒について相談して助言をもらったりするなど、適切な指導ができるよう環境を整えている 学校生活などに困難を伴う生徒に対しては、就学支援委員会や保護者、外部機関と連携し、ニーズにあった支援を模索した 学校教育自己診断（生徒）「悩みを相談できる先生」74%（○）
3 創立50周年を見据えた魅力づくりと発信	(1) 本校の強みの伸長とアドミッションポリシーなどの再構築	選抜制度改革もにらみ、本校の魅力・強みを全教職員で再認識・再定義し、選ばれる学校をめざしてスクール・ポリシーなどに落とし込んでいく	活動の具体的状況を評価	令和10年度の選抜制度改革に向け学校特色枠を作成。本校の特色、強みを分析し、①まじめに、ひたむきに学習に取り組む生徒 ②アクティブコースに挑戦する生徒 ③課外活動に熱心に取り組む生徒を募集する（○）
	(2) 広報活動のさらなる充実	ア SNS や動画配信サービスの公式アカウントを活用した広報活動を実施。 メール配信システムなどでタイムリーな情報発信につとめ、保護者との協力体制を強化する さらに、（上記の）制服変更も積極的にPRしていくほか、HP や学校案内リーフレットのリニューアルも検討する	ア 学校見学会年3回を維持 学校教育自己診断（保護者）「連絡や意思疎通が適切」85%以上を維持[85%] HP やリーフレットの具体的な検討状況	ア 学校見学会は3回実施（6月7日、11月15日、1月24日）。昨年度（3回計：保護者421名、中学生546名）を大きく上回る参加者（3回計：保護者501名、中学生678名）があった 公式SNSのフォロワー数は840人（1月29日現在）。学習支援連絡網では、保護者向けのお知らせや修学旅行中の動静など、1月7日現在計173件を配信 制服変更については、早い段階から学校見学会や文化祭などの行事のほか、校外での説明会、HPなどで積極的に広報し、成果があったと考える これに伴い、リーフレットは10月半ばから新しいものに更新。HPもリニューアル作業に取りかかっている 学校教育自己診断（保護者）「連絡が適切」91%（◎）
	(3) 国際交流活動等の推進	ア 国際交流委員会などを中心に、海外の生徒らとの交流に取り組む	ア 国際交流の具体的な状況	ア 府の施策である姉妹校提携については、来年度の締結校に決まった。相手国を選定中 また前述の通り、生徒会とウガンダ NGO との交流は継続しており、今後も活動を続けていく（○）

府立香里丘高等学校

4 開かれた学校づくりと 学校力・教員力の向上	(1) 地域等との連携 推進	ア 地域の中学校との交流イベント「香里フェス」「香里カップ」の開催継続 授業・行事の公開、生徒会活動などを通じて保護者や地域との連携を深める また、探究や部活動などを通じて大学等外部団体や外部人材との連携・協働を進める	ア 「香里フェス」「香里カップ」5部以上開催[5部]各部の参加校数維持[ソフトボール16、サッカー4、ソフトテニス7、女子バスケ12、吹奏楽10] 学校教育自己診断（生徒）「授業・部活動・行事で保護者や地域の人々とかかわる機会」75%以上[75%] 連携・協働の具体的状況	ア 「香里カップ」「香里フェス」計5部実施（吹奏楽11月15日参加20校、サッカー12月21日同5校、ソフトボール1月12日同13校（11チーム）。女子バスケ3月30日同12校、ソフトテニス3月30日（31日雨天中止）同6校（○） 体育祭・文化祭を保護者や地域に公開 クリーン・キャンペーン計2回（6月、11月） 11月実施は仮装で行い、前述の通り、府で表彰されるこのほか、吹奏楽部が10月26日に「高齢者との集い（さだ東校区地域コミュニティ主催）、地域連携及び枚方第4中学の中高連携行事として11月16日に枚方市立五常小学校で行われた「五常祭」演奏（合同演奏含む）2年生の探究で地域企業6社と連携して商品開発に取り組み、文化祭で開発商品の発表と販売を行った。うち2商品は既に市販されている 1年生探究の関西大、アクティブSPORTSの大阪医療福祉専門学校、同音楽の大阪音大などとの連携は例年通り 学校教育自己診断（生徒）「授業・部活動・行事で保護者や地域の人々とかかわる機会」77%（○）
	(2) 経験の少ない教員らの育成	経験の少ない教職員がスムーズに業務にあたるよう、勉強会や研究事業を通して指導していく	経験の少ない教員向けの勉強会「香里会」を年10回以上[22回] 取組みの具体的な状況	1月29日現在、香里会を計23回実施。学校見学会や外部の学校説明会の準備等に積極的に関わってもらっている（◎）
	(3) 働き方改革の推進	ア 業務の精選と組織の再構築を推進し、生産性の高い職場をめざす また、部活動方針の順守を確認する	ア 時間外勤務の平均時間減[28.6時間] 会議でのICT活用・ペーパーレスの継続	ア 時間外の平均28.1時間（○）